

肺がん検診の結果が「要精密検査」の場合は、必ず精密検査を受けましょう！

がんは、日本人の死因第1位で、年間37万人以上のかたが亡くなっています。その中でも、肺がんは部位別の死亡数第1位、罹患数第3位と多く発症しています。

肺がん検診（長崎市のがん検診で皆さんが受けた検査：胸部X線検査および喀痰細胞診検査）

肺がんの最大の危険因子はたばこです。非喫煙者に比べ、喫煙者が肺がんになる確率は約5倍とされています。肺にはたくさんの毛細血管が出入りしており、がんが広がりやすく転移も起きやすいため、特に咳が長引くような場合は早めの病院受診をおすすめします。



要精密検査

（胸部CT検査、気管支鏡検査）

※精密検査は、**保険診療**となります。

※胸部CT検査とは？

体の周囲を360度回転しながらX線を照射して、断面画像を撮影します。



※気管支鏡検査とは？

直径3~6mmの細くやわらかい管で、口または鼻から喉を通して挿入して肺につながる気管や気管支の内腔を直接のぞき見る検査です。呼吸器専門医がいる医療機関で受けられます。胃カメラと比べて大変細くできており、組織や細胞、分泌物などの検体を採取したりします。高齢者や基礎疾患のあるかたは、一泊での検査入院となる場合が多いようです。

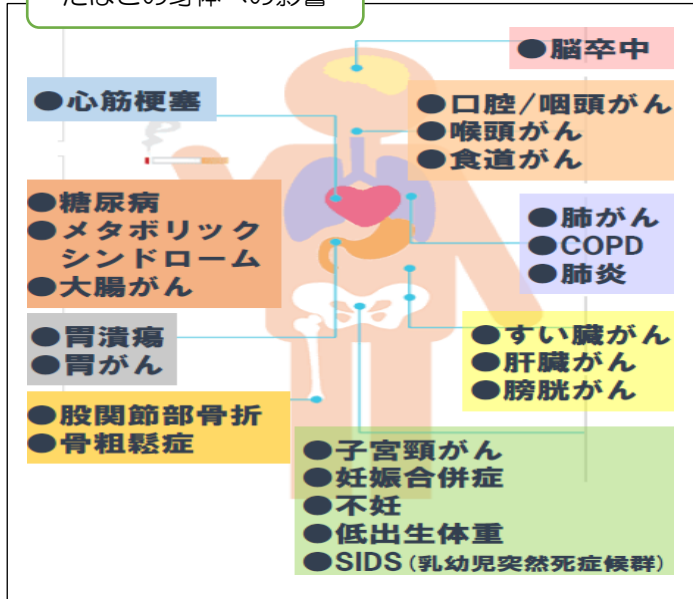
☆がんに関する統計データ☆（全国がん登録罹患数・率報告 2020 より）

がん部位別死亡数と罹患患者数

死亡数(2019年)	男女計	罹患数(2018年)
肺がん	1位	大腸がん
大腸がん	2位	胃がん
胃がん	3位	肺がん
すい臓がん	4位	乳がん
肝臓がん	5位	前立腺がん

長崎市では、禁煙を応援するために『肺年齢測定とたばこに関する相談』を開催しています。詳しくは、広報ながさきをご覧ください。

たばこの身体への影響



大切な命を守るために、忙しさを理由にせず、必ず精密検査を受けましょう。